

日本銀行旧小樽支店 金融資料館

設計:辰野金吾/長野宇平治/岡田信一郎
竣工:明治45年(1912)
住所:北海道小樽市色内1-11-16
交通:JR小樽駅徒歩10分



かつて『北のウォール街』と呼ばれた小樽市には金融機関関連の古い建物が多く残っているが、その中でも一際存在感を誇るのが、この日本銀行旧小樽支店金融資料館である。設計は日銀本店や各支店に係わっている辰野金吾・長野宇平治に岡田信一郎【おかだしんいちろう・明治16年(1883)～昭和7年(1932)】も加わっている。岡田は後に大阪公会堂、歌舞伎座、明治生命館、旧琵琶湖ホテル本館などを設計し、聖ニコライ堂の修復を手がけた人物であるが、20代という若さでこの小樽支店の設計に係わったことは、彼の天才性を示すものといえよう。

日銀本店・大阪支店に次ぐ高額の費用(当時の金額で約40万円)を投じて建てられたこの小樽支店は、レンガ造りの2階建てをモルタルで仕上げ、石造り風の外観としている。ルネサンス様式であり、正面から見ると、4基の小型ドームがかわいらしい印象を受けるが、左側面から見ると巨大な望楼が異彩を放っている。一説には、この望楼は小樽湾に出入りする船舶を監視するためのものであったという。

明治26年(1893)に小樽派出所として開設されて以来、109年の長きにわたり、当地の拠点として営業を続けてきたが、平成14年(2002)9月13日をもって、小樽支店は廃止、札幌支店に統合された。しかし、歴史的背景などを考慮して、所要の工事を行った上で平成15年(2003)5月14日に『金融資料館』として再オープンした。

この文書の著作権は株式会社富士通アドバンスソリューションズが保有します。許可なく複製、転用、販売などの二次利用することは禁じます。

雑誌書籍、広告など出版物への掲載にあたっては、お手数ですが、事前にご連絡願います。